

マーカス・デュ・ソーティ 『数学が見つける近道』 新潮社、2023

野村 恒彦

NOMURA Tsunehiko

I 研究内容

数学史、特に 19 世紀英国数学史をチャールズ・バベッジの業績を中心に研究している。他に探偵小説に非常に興味があり、国内外の作品を読み、研究している。神戸市東川崎町生まれの作家である横溝正史の生誕地碑建立に中心となって尽力した。

II 紹介

著者の数学を中心とした著作は 7 冊あり、そのうち 6 冊の翻訳がなされている。本書はそのうち最新のものである。本書のキーワードは「近道」(Shortcut)であり、計算の方法、経路の方法、統計的な方法等での「近道」の探求を俯瞰するという内容を持つ数学史書である。そして著者は現在までの「近道」探求の成果を用いて次なる探求に向かおうと鼓舞している。平明な記述なので、数学に興味ある方にはぜひとも一読いただきたい。